

第5期 雄武町総合計画 後期実施計画書 兼 事務事業評価調書

様式1

No. 05010100

政策目標	2 めぐもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	会 計 区 分	1 一般会計	[全体計画内容] ※後期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	6 保健・医療の充実	事業優先度	A	
単位施策	3 母子保健・女性の健康支援の充実	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	女性の健康づくり支援事業	見直し年度		
事業期間	平成25年度～平成29年度	担当課	5 保健福祉課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	女性の健康診査受診率		#N/A	
事業目標	50%	ハード/ソフト事業区分	2 ソフト事業	
住民参加	有 主体的な健康づくりへの取組	関係例規・法令名	有 健康増進法、母子保健法	
住民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 25 年度 事 業 内 容	平成 26 年度 事 業 内 容	平成 27 年度 事 業 内 容	平成 28 年度 事 業 内 容	平成 29 年度 事 業 内 容
計 画 内 容	思春期から青年期、更年期のライフサイクルに応じて妊娠・出産等の大きな健康課題を抱える女性が、生涯を通じて健康で充実した生活を送ることを支援することを目的に、健康相談・健康診査費用の助成を実施する。	・女性の健康相談事業 ・女性の健康相談事業女性の健康診査費の助成	・女性の健康相談事業 ・女性の健康相談事業女性の健康診査費の助成	・女性の健康相談事業 ・女性の健康相談事業女性の健康診査費の助成	・女性の健康相談事業 ・女性の健康相談事業女性の健康診査費の助成	・女性の健康相談事業 ・女性の健康相談事業女性の健康診査費の助成
計 画 事 業 費	事業費(千円)	1,100	220	220	220	220
財 源 内 訳	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	1,100	220	220	220	220
実 績 事 業 費	事業費(千円)	171	171	0	0	0
財 源 内 訳	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	171	171			
関 連 事 項	特定財源の名称 【評価・実績】	(実施内容等) ・子育て講話等専門相談 8回 222名 ・個別相談、訪問 2件 ・一般健診無料クーポン券利用数 3名(利用率20%) ※前年度評価結果 A-継続/現状維持	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果	(実施内容等) ※前年度評価結果
	前期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	50%	50%	50%	50%
		年度達成率	78%	0%	0%	0%
	第6期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	16%	16%	16%	16%
		事業進捗状況	☆☆☆			

事業名	女性の健康づくり支援事業	評価者	管理職 職氏名	保健福祉課長	豊田 通敏
		評価者	作成者 職氏名	保健係長	佐々木 希美枝

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	主に思春期から更年期にかかる女性	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	一般健診無料クーポン券利用率
【抱える課題やニーズは】	妊娠・出産などの大きな健康課題を抱えるとともに、思春期・更年期等のライフステージにおける健康課題がある	①	一般健診無料クーポン券利用率
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	ライフステージに応じた健康課題に適切に対応し健康的で充実した生活を送ることができる	②	子育て講話参加者数の増
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	ライフステージに応じた健康課題を解決できる		
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	女性の健康づくりに資する事業の実施	子育て講話、家庭訪問等個別支援を実施し、子育てや女性の健康づくりに資する知識や意識の啓発を行った	
	一般健診受診費用の助成の実施	女性の厄年(33歳)、年女(36歳)の方に対し一般健診受診の無料クーポン券を送付した	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

概ね必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	女性にはライフステージにおいて心身に大きな変化が起こる特徴を踏まえ、特徴に即した支援が必要と考える。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	事業参加者は子育て期の女性が多く、助産師等の支援を適宜受けることができた。今後は思春期や更年期等子育て期以外の女性にも活用されるよう、事業の有効性を高めていく必要がある。一般健診対象者へは積極的に周知が必要である。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input type="checkbox"/>	判断の理由	子育て支援センター等関係機関との連携により、事業のニーズの高い対象層への事業提供は効率化を図ることができた。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

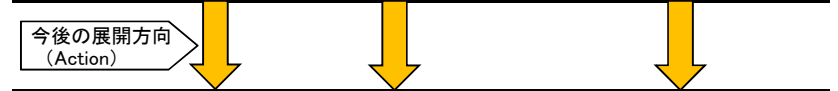
公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	事業の実施にあたっては、個別通知の他、広報や町ホームページで周知し公平性の確保に努めた。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
B		
健診受診率は目標を達成することはできなかったが、事業参加者数は概ね目標を達成することができた。		



継続/現状維持		
今後も助産師の専門性を生かした講話や個別支援の機会を確保するとともに、無料クーポン券の利用を促進し、生涯にわたる健康づくりの支援に努める。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止